県が「ふるさとやまなし創生フォーラム」

子育て環境 自信もって発信

〈パネリスト〉
子育て情報誌「ちびっこぷれす」編集部　**新津　幸さん**
社会福祉法人ゆうゆう理事長、すみよし愛児園長　**矢巻　行祥さん**
やまなし暮らし支援センター移住専門相談員　**倉田　貴根さん**
山梨県福祉保健部健康増進課長　**岩佐景一郎さん**
〈コーディネーター〉
山梨総合研究所専務理事　**村田　俊也さん**

村田　山梨県の人口減少の現状と子育て施策を教えてください。

岩佐　県の人口は2000年をピークに減少傾向にあり、今後も減少が想定されます。合計特殊出生率は1・5にとどまっています。県は「山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を15年に策定。「生み・育むことにやさしい環境を創生する」ことを基本目標に、安心して出産・子育てができる環境の充実を目指しています。具体的には、宿泊型産後ケア支援や24時間体制の電話相談、第2子以降3歳児未満の保育料無料化などを行っています。

村田　父親としての考えは。

岩佐　女性の社会進出は男性の家庭進出なくして不可能であると考えます。夫の家事・育児時間が長いと第2子以降の出生割合が増えるというデータがあり、男性の育児休業取得は必要です。一方で子育て世代の仕事量は非常に多く、働き方の改革も必須です。私は育児休業を取得できましたが、同僚に負担をかけるという心理的負担はありました。日本人は他人に迷惑を掛けないことが美徳とされているため、「サポートしてほしい」といった声を上げにくいのです。助けを求める「受援力」を高め、助けた人も助けられた人もお互いさまという空気をつくることが大切です。

矢巻行祥さん

岩佐景一郎さん

新津幸さん

倉田貴根さん

光り輝ける場所に　新津さん
行動で社会変える　矢巻さん

村田　活動を紹介してください。

新津　私は19歳で出産しましたが、孤立した子育てになってしまったことから、行き場のない母親の居場所をつくり、子育てを支援してきました。現在は子育て支援者のネットワーク「やまなし子育て応援ネットワーク　はぴはぴ」の活動と、子育て情報誌の編集をしています。南アルプス市の子育てハンドブックを発行する際は、行政だけではなく、母親や市民団体も一緒になって作りました。南アルプス市市民活動センターではコーディネーターとして、市民活動をサポートしています。皆の声を届け、支えることが役目と思っています。

矢巻　甲府・すみよし愛児園（こども園）をはじめ、指定管理者として笛吹市と東京都の保育園を運営しています。いずれも元は60人定員です。全ての家庭を訪問でき、話を進められるので、60人程度の規模が望ましいと考えているからです。当園では子どもと親が協力してピザ窯造りに挑戦しました。難しく考えると一歩は踏み出せません。やってみようという人が行動することで、社会は変わります。社会は人がつくり、人が変わると社会が変わるということを伝えていきたいと思っています。

村田俊也さん

移住増へＰＲ大切　倉田さん
男性サポート必要　岩佐さん

倉田　山梨県の人口減少対策の施策として13年、東京・有楽町に「やまなし暮らし支援センター」がオープンし、私は相談員を務めています。当初はリタイア後の生活を考える人が多かったのですが、最近は30代、40代の子育て世代が増えています。移住希望先として、山梨は13年に全国2位、14年には1位となり、15年には約2500件もの相談があるなど、注目されています。

村田　東京と山梨の子育て環境の違いは。

岩佐　山梨は、子どもが自然に触れながら遊べる場所が多いと感じます。

倉田　東京では保育園開設を子どもの声が原因で反対されたり、公園でボール遊びができなかったりすることがあります。東京での子育てに限界を感じ、山梨での子育てを望む方が増えているのです。

村田　山梨の良さを知ってもらうことが大切ですね。

倉田　山梨県民は山梨の良さに気付くことで、幸福度が上がるのではないでしょうか。PRがあまりうまくないと感じます。例えば、産前産後ケアセンターは素晴らしい施設ですが、もっとPRし、利用していただきたいと思います。

村田　今後、どのような社会を望みますか。

新津　観光とは、光り輝いているところを見に行くことが語源です。光り輝く場所だからこそ皆が興味を持つのです。山梨で子育てして良かったと思える場所になることが、人口増加で一番大切なことだと思います。

矢巻　パラリンピック選手村では、選手が地下の食堂に行く時に周囲の人がかついでくれるそうです。日本は施設をバリアフリーにしていますが、海外では心のバリアフリーができています。親が自分たちにしてくれたように、子どもたちに良い環境を残していくことが私たち大人の役割だと思います。

倉田　山梨は世界に発信しても負けないくらいに素晴らしいところです。もっと自信をもってほしいですね。ただ、子育てで仕事を辞めると復帰できない母親が大勢います。人口減少が進んで生産人口が減る中、女性と高齢者の労働が求められています。女性の再教育の場が山梨にできることを望んでいます。

岩佐　夫がどれだけサポートし、妻がどれだけ働けるかが重要になります。より子育てしやすい環境になるために、さまざまな方々と協力し、山梨県の総合力をアップさせたいと考えています。

村田　山梨の素晴らしい子育て環境をもっと発信することで、山梨への移住者は増えるでしょう。そのために、県民は山梨に自信と誇りを持つべきです。行政だけではなく、地域が一体となって取り組むことで、住みよい社会になり、子育て日本一の環境になるのではないでしょうか。

（敬称略）

子
をか
立文
を開
んが
調講
地域
県内
社会

もたに・こうすけさん
年山口県生まれ。平成
の3200市町村全てと、
カ国を自費で訪問し、
性を把握。地域振興や
熟問題に関し研究・著
演を行う。2012年から現

スです。

昭和町や甲斐市などでは人口増加が続いていますが、年齢別に見てみると、増えた人の半分以上は65歳以上です。かつて流れ込んだ若者が続々と高齢者になっているからなのですが、町の福祉体制は大丈夫

生まれ

過去40年間で首都圏の子供は半減しています。それにもかかわらず保育所は足りず、病院も足りません。

一方で、山間過疎地では、高齢者が減り始めています。高度成長期に若者が出

供の数が減らなければ

は消滅しません。

われわれ人間の遺伝子は、原始時代からまったく変わっていません。大人2人に対して平均2人の子供が育つように、人間の体はつくられているのです。小

首都圏をはじめ大都市圏の出生率が低いのは、子供を多く産むと育てるのに苦労する環境だからです。常識と逆ですが、東京都は20〜30代の女性が働いている率が最も低い都道府県で

しょう。

人間は母親だけでなく社会全体で子育てをする生き物です。いい社会、いい環境になることで、必ず山梨県の子どもは増えるでしょう。

未来に向けて大きく夢と希望が持てる山

山梨県まち・ひと・しごと創生

山梨県では、2015（平成27）年9月に、2060（平成72）年を見据えた本県が目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す「山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を策定し、2015（平成27）年12月には、人口ビジョンに描いた将来の姿を実現するため、今後5年間

雇用
《地域に根ざした新しい雇用を創生する》
基盤
産業基盤の整備を推進するとともに、市場の変化に対応できる事業者を育成し、持続可能な力強い産業づくりを進める。

《明日の山梨を